

<<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>>

令和3年度 病害虫発生予察注意報 第3号

1. 病害虫名 : モモせん孔細菌病 (図1、2)



図1 葉の症状



図2 果実の症状

2. 対象作物 : モモ

3. 発生が予想される地域 : 県下全域

4. 発生程度 : 多

5. 注意報発表の根拠

- 1) 5月18日に実施した葉での発病調査では、発生圃場率は100% (平年 : 89.4%)、発病葉率は11.9% (平年 : 5.9%) であり、発生圃場率、発病葉率ともに多かった (第1表)。
- 2) 四国地方における向こう1か月の気象は、降水量が多い予報であり、今後、風を伴う降雨が続くと発病が増加するおそれがある。

第1表 モモにおけるせん孔細菌病の葉の発生状況

年次	発生圃場率 (%)				
	4月下旬	5月中下旬	6月中旬	7月中旬	8月下旬
2011	33.3	77.8	94.4	100	100
2012	61.1	72.2	88.9	83.3	94.4
2013	38.9	83.3	88.9	94.4	44.4
2014	88.9	100	100	100	100
2015	50.0	88.9	94.4	94.4	100
2016	55.6	94.4	100	100	100
2017	16.7	88.9	83.3	72.2	100
2018	77.8	94.4	100.0	94.4	94.4
2019	72.2	94.4	77.8	94.4	94.4
2020	55.6	100	100	100	100
2021	83.3	100			
平年値	55.0	89.4	92.8	93.3	92.8

年次	発病葉率 (%)				
	4月下旬	5月中下旬	6月中旬	7月中旬	8月下旬
2011	1.3	9.7	7.1	8.9	18.2
2012	1.9	5.7	3.1	7.5	12.4
2013	6.7	3.4	2.0	7.1	3.6
2014	2.8	8.3	8.5	8.4	28.9
2015	2.9	6.0	7.1	11.8	64.8
2016	1.3	4.2	15.1	30.3	36.4
2017	0.5	2.7	5.3	7.1	16.0
2018	5.1	6.6	9.3	6.1	11.0
2019	1.1	2.9	2.9	4.2	11.5
2020	1.2	9.4	8.1	7.1	8.2
2021	5.6	11.9			
平年値	2.5	5.9	6.8	9.8	21.1

6. 防除実施上の留意点

- 1) 薬剤防除を実施していない園では早急に防除する。
- 2) 例年多発する園地では果実への感染を防止するため、早めに袋かけを行う。
- 3) 発病枝は伝染源となるので、見つけ次第除去して適正に処分する。
- 4) 病原菌は葉や果実の自然の開口部 (気孔、水孔等) や傷口から侵入するので、風当たりの強い園地では防風ネット等の防風対策を施すとともに、コスカシバ、キクイムシ、モモハモグリガ等の害虫防除を徹底し樹勢低下を防止する。
- 5) 同一病原菌によって発生するスモモの黒斑病も多発生が予想されるので注意する。

第2表 モモせん孔細菌病の防除薬剤と使用基準

(香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針より抜粋。令和3年5月13日時点)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	成分名	FRAC コード
バリダシン液剤5	500倍	収穫7日前まで	5回以内	バリダマイシン	U18
マイコシールド	1,500~3,000倍	収穫21日前まで	5回以内	オキシテトラサイクリン	41
トレノックスフロアブル	500倍	収穫7日前まで	5回以内	チウラム	M3
デランフロアブル	600~1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	ジチアノン	M9
マスタピース水和剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	—	シュードモナス ロデシア	未設定

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>